

栄町見聞録

第183号

平成三十一年五月



執筆発行 栄町議会議員

野田 泰博 (立憲民主党)

栄町安食台1丁目8番7号

メール yasnodat876@gmail.com

tel 0476-95-3665



今の日本の現状を言い当てた友人からのメールメッセージ紹介

5月3日有明憲法集会で元NHKプロデューサー 永田廣三氏のスピーチ (産経新聞記事より)

「皆さん、こんにちは。32年間NHKでプロデューサー、ディレクターをしていました。今は大学の教員として若者とともにドキュメンタリーを作ったりしています。今日は、総理の仕事をしている安倍晋三君について話したいと思います。知らない人は、あの嘘つきといえればいい出されるかもしれませ

ん。私と安倍君は同じ1954年生まれです。同じ学年には(共産党委員長の)志位和夫君、(元文部科学事務次官の)前川喜平君、ドイツの首相メルケルさんがいます。安倍君は福島第1原発事故の後、すぐに原発をやめると決めたメルケルさんとは相性が良くないみたいですし、加計学園の獣医学部を作るのが、いかに無理筋だったかを証拠立てて語る前川君が苦手なようです。あと志位和夫君も苦手みたいです」

「私たち1954年生まれは、皆、戦後民主主義教育の申し子です。日本国憲法の3つの柱、『国民主権』『基本的人権の尊重』『平和主義』がどれほど大事なのか、小学校や中学校でしっかり学んだんです。先生たちも熱心でした」

「小学4年生のとき、東京五輪がありました。オリンピックは参加する」とにこそ意義がある。日の丸が上がるかどうかは関係ない。優れた競技やすごい記録に拍手を送るんだ。アベベ、チャフラフスカ、シヨランダ...。柔道(無差別級)で神永(昭夫)が(オランダの)ヘーシンクに負けたときも、シヨックはなくて、ヘーシンクに私は拍手を送りました」

「日本を、取り戻す。『がんばれ、ニッポン!』。その旗を振る安倍君、少し見が狭すぎませんか」

「大学を卒業し、安倍君はサラリーマンを経て、政治家になり、私はNHKのディレクターになりました。ある時、思いがけない接点がありました。2001年のことです。私は、日本軍の慰安婦として被害に遭った女性たちを扱ったNHKの番組の編集長でした。一方、その時、安倍君は内閣官房副長官。君は放送の直前にNHK幹部たちにちよっかいを出し、番組が劇的に変わってしまった。永田町でどんなやりとりがあったのか。その後、朝日新聞の取材で輪郭が明らかになっています」

「私は抵抗しました。敗れました。体験したことを世の中に語ることはできず、孤立し、長い間、沈黙を続けました。悔しく、また恥ずかしいことです。あのとき君はそれなりの権力者でした。放送前に番組を変えさせると、憲法21条の言論の自由、検閲の禁止を犯すことになり、そのことが世の中にさらされれば、君は今のような総理大臣になつていなかったことでしょう」

「今、官邸記者会見で、東京新聞の望月衣塑子記者が菅(義偉)官房長官からさまざまな圧力を受け、質問が十分にできない中、それでもわれわれの知る権利の代行者であるうと必死で頑張っています。私には人ごととは思えません。でも、私と大きく違うのは、望月さん自身が勇気を出してSNSや集会で状況を発信し、市民とともに事態を共有することで、ジャーナリストを含めた連帯の輪が広がっていることです。市民とジャーナリストの連帯、メディアを市民の手に取り戻す。希望の光がわずかに見える思いです」

「安倍君の話に戻ります。君が以前アメリカを訪問したとき、キャロルキングの『You've Got a Friend』という曲が好きだと言いましたね。『どんなに苦しいときでも友達でいようよ』。僕も大好きですし、その感覚はわかります。『私は抵抗しました。敗れました。体験したことを世の中に語ることはできず、孤立し、長い間、沈黙を続けました。悔しく、また恥ずかしいことです。あのとき君はそれなりの権力者でした。放送前に番組を変えさせると、憲法21条の言論の自由、検閲の禁止を犯すことになり、そのことが世の中にさらされれば、君は今のような総理大臣になつていなかったことでしょう』

「今日5月3日、32年前、朝日新聞阪神支局で小尻知博記者が銃弾に倒れました。言論の自由が脅かされる社会なんてあってはなりません。ここにお集まりの皆さんが思っておられるのは多分、こうだと思えます。リセットすべきなのは、元号ではなく、今の政権なのだ」

「友情とはもつと気高く素晴らしいものです。君は実力以上に大事にされました。これ以上、何を望むことがあろうでしょうか。同じ年、同じ学年として忠告します。『これ以上、日本社会を壊すことはやめなさい! これ以上、沖繩をいじめるのはやめなさい!』大事な憲法をいじるのはやめておとなしく身を引きなさい!」

「歴史から学ぶことが嫌いで、不得意の安倍君、戦争の道を断じて進んではなりません。30年前にベルリンの壁が壊れたとき、私は東欧各地の取材をしていました。そのとき、人々が何より大事だと考えたのは、言論の自由と連帯、そして多様性です。憲法21条に明記された言論・表現の自由、一方、放送法第1条には『放送は健全な民主主義に資すること』とあります。健全な民主主義というのは少数者

の意見を大事にし、多様性を認め、不埒な政府の横暴にあらがいが、連帯することです」

「今日は5月3日、32年前、朝日新聞阪神支局で小尻知博記者が銃弾に倒れました。言論の自由が脅かされる社会なんてあってはなりません。ここにお集まりの皆さんが思っておられるのは多分、こうだと思えます。リセットすべきなのは、元号ではなく、今の政権なのだ」

「今日5月3日、32年前、朝日新聞阪神支局で小尻知博記者が銃弾に倒れました。言論の自由が脅かされる社会なんてあってはなりません。ここにお集まりの皆さんが思っておられるのは多分、こうだと思えます。リセットすべきなのは、元号ではなく、今の政権なのだ」



「今日5月3日、32年前、朝日新聞阪神支局で小尻知博記者が銃弾に倒れました。言論の自由が脅かされる社会なんてあってはなりません。ここにお集まりの皆さんが思っておられるのは多分、こうだと思えます。リセットすべきなのは、元号ではなく、今の政権なのだ」

2019年5月に千葉県議会議員
定員94名0所属5会派
1 自民党千葉県議会議員会
2 立憲民主党千葉県議会議員会
3 千葉民主会
3 公明党千葉県議会議員団
4 日本共産党千葉県議会議員団
5 千翔会
6 平和口党
7 社民党
8 千葉県民の声を
9 市民ネットワーク
7 北総タウンシユン会
8 リベラル民生
9 無所属
9 無所属
0 無所属

1 1 1 1 1 1 1 1 2 8 9
名 名 名 名 名 名 名 名 名 名 名
岩井議員0 所属1 自民党最大会派1
千葉県議会9 ムページよ4

2019年千葉県議選結果4月7日投票日							
加藤亮二		滝田敏幸		岩井泰憲		山本 清	
栄町	印西市	栄町	印西市	栄町	印西市	栄町	印西市
1,183	5,194	1,247	14,043	5,274	6,470	569	5,084
6,377		15,290		11,744		5,653	
		当選		当選			

(参考) 自民党公認滝田氏と無所属自民党の岩井氏の両氏の得票6521票所属で、栄町の有権者が投票した全票8273票の79%が自民党に投票した事を意味する。栄町は千葉県一の自民党王国となった。

千葉県議選のこと
本年4月7日投票日
当選 栄町岩井泰憲氏、
印西市滝田敏幸氏
印西市と栄町が合区となり二人の県議がこの2地区から選ばれる選挙が4月7日に行われた。結果は左表のように自民党公認滝田敏幸氏と無所属自民党員の岩井泰憲氏が当選。挑戦者の新人二人(印西市)が落選した。

公職選挙法遵守の品位
私は今まで選挙で応援する候補者には公職選挙法を遵守し、選挙違反をせずに臨んでほしいと常に指導してきました。町民から学歴にこだわると苦情を頂戴しましたが、私は学歴になど全くこだわっていません。学歴でも職歴でも有権者に正確に伝えるのが政治家の義務と言いたいので

「有権者の投票する権利」を政治家は守る立場です。早稲田大学大学院の公共経営研究科で講座を持って教えている北川正恭氏は私もよく存じ上げています。以前、元宮城県知事の浅野さんと共に講演会の後話し合いました。サラリーマンでも議員は務まると話した事を鮮明に覚えていて。北川氏の講座で学んだなら有権者を守ることに意味は十分に理解できるはず。

県議になり年間220万円もかけて北川ゼミで学んだらとまで教えてくれた県議の位を保持して貰いたい。選管から何度警告を受けても無視し、悪びれせず違反を続けた態度と取得した学位のギャップを感じているのは私一人ではありません。

数年前から大学院修士課程を志すのと何度も約束して持参すると何度か自民党大臣の応援を受けたら証明書らした書類を夜の真暗闇の中で上から皆に見せたと聞いた。パーティーオーマンスより約束した3名の方に実際の学位証明書を3名の方に見せて欲しかった。通常は修士2年、博士は1年か2年かかるもの、博士は1年か2年で取ったのは立派です。お住い近くの竜角寺台

にも学位を見れば、すぐ納得する人もいます。是非約束した人たちに取得学位証明書を見せてあげて下さい。

昨年、日本で一番古い原発の東海第2原発が事故を起こした場合、印旛地区全体が1万4千人も「ひたちなか市民」の避難場所となった。成田市、栄町、酒々井町、富里市、八街市、四街道市、佐倉市、印西市、白井市、神崎町に自家用車、バスなどで一気に押し寄せてきます。各市町に2500人から1000人単位で避難されてきます。その受け入れはまだ住民に知らされていない。準備もできていない。原子力規制委員会が廃止40年ルールを改め20年延長を認めた今、これからどうなるか、住民の皆様が関心を持っていただきたいので企画しました。太陽の蓋映画上映実行委員

6月2日(日)午後1時30分開場 ふれあいプラザさかえ文化ホール

事故当時 首相の菅直人氏と
映画製作者の橘民義氏のトークセッション有り

原発が暴発した時、総理官邸では何が起きていたのかフランスで大好評の『太陽の蓋』を上映します。
(議事録に基づき実話を映画化)
今年の2月、3月にフランスで上映し、主役の菅直人元総理も各地で原発問題を講演してきました。
入場料：大人500円、中学生以下無料 定員700名 要申込

申込先 電話 047-497-8568 Fax 047-413-0384
メール kksmwh6173@gmail.com
ネット申込フォーム <https://form.run/@taiyo>
お名前 _____ Tel _____
ご住所 _____ 参加希望 上映会 トークセッション



あらすじ 2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災発生、福島第一原発は全電源を喪失の危機に陥った。冷却装置を失った原子炉は温度が上がり続ける。チェルノブイリに匹敵する最悪の事態が迫っていた。巨大な怪獣へと変貌を遂げる原発に対して、想定外の状況を前に、打つ手のないまま、時は刻々と過ぎ、やがて無情にも地震発生から翌日の3月12日午後3時36分、1号機の原子炉建屋が水素爆発したのであった。続けて3号機で、2号機で、連

鎖するように起こる異変。破滅に向けてのカウントダウンは、止まることを知らなかった。あの日、私たち日本人が、メディアを通して目撃したことは真実だったのか？なぜ日本人は原発に対して、あれほど無力だったのか？閉ざされていた全てが、いま明らかになる。
主催：「太陽の蓋」映画上映実行委員会
責任者：重富与八郎&野田泰博 tel0476-95-3665 (野田)